Japan Bowling Congress

JBCnews

since1970

【毎月１回１日発行・１部20円】

JBCニュース
第566号 平成３１年３月１日
昭和50年５月19日第三種郵便物認可

発行所
公益財団法人 全日本ボウリング協会
東京都港区芝４－４－10
サンライズ長井ビル8F 03(3452)4501
http://www.jbc-bowling.or.jp/

石川県バンザイ！

決勝進出 トランテックス

第4位 北陸電力石川支店

優勝
久世ベローズ工業所

準優勝
金沢市役所

index

２面　ナショナルチーム通信、委員会レポート、連盟トピックス
３面　第47回全日本クラブ対抗選手権大会
４～５面　第34回全日本年齢別選手権大会
６面　第36回全日本実業団都市対抗選手権大会
７面　第50回全日本大学個人選手権大会
８面　KUWATA CUP 2019、ROUND1グラチャンinfo

第36回 全日本実業団都市対抗選手権大会

久世ベローズ工業所が前回覇者であり石川の盟友・金沢市役所を２位に抑えて初優勝し、北陸電力石川支店も表彰台に。ホームタウン代表として臨むこの大会で、石川県勢の結束が結果に表れました。

新参者と最古参が火をつけた覇権争いは、全国の強豪を巻き込んでヒートアップの一途をたどっています。新たな王国の誕生がもたらす変化が楽しみなこれからの実業団ボウリング界です。

写真提供 清水正弘さん（金沢市役所）

KING OF BOWLING

文部科学大臣杯
第 57 回 全日本ボウリング選手権大会
〈スポーツ振興基金助成事業〉

2019年 3月 21日（木･祝）～24日（日）

主催　公益財団法人 全日本ボウリング協会
後援　スポーツ庁
公益財団法人 日本スポーツ協会
公益財団法人 日本オリンピック委員会
愛知県
愛知県教育委員会
公益財団法人 愛知県体育協会
稲沢市
稲沢市教育委員会
稲沢市体育協会
稲沢市ボウリング協会
主管　愛知県ボウリング連盟

GUINNESS WORLD RECORDS
世界最大のボウリング場
116レーン（長さ198.39m/650.88ft）
ギネス世界記録認定を受けた「世界最大のボウリング場」で、リニューアルされた「プロレーン」をご堪能ください。

稲沢グランドボウル　〒492-8164　愛知県稲沢市井之口大坪町 80-1
TEL 0587-21-2131　FAX 0587-21-2133
www.grandbowl.jp/inazawa

GrandBowl

ＪＢＣニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています　スポーツくじ　toto　BIG

2019 ナショナルチーム メンバーが決定

We are Team JAPAN ナショナルチーム通信

全日本ナショナルチーム・ユースナショナルチームメンバーの選考（参考記録）会が1月11日㈮から13日㈰にかけて、愛知・稲沢グランドボウル（公競№122-064）で行われ、総勢40名が2019年度メンバーに選ばれました。

第18回アジア競技大会（2018／ジャカルタ・パレンバン）を金メダル2個の成績で終了し、4年後の次回大会を見据えて新チームに生まれ変わります。

チーム歴15年の佐々木智之（神奈川・湘南モノレール㈱）は今回、男女合わせたチームをまとめるキャプテンに。女子チームのキャプテンには佐藤悠里（神奈川・湘南ボウル）が選ばれました。

またバイスキャプテンとして安里秀策（和歌山・日高東宝ボウル）、今井双葉（熊本・熊本学園大学）がキャプテンを支えます。

メンバーにはナショナルチーム男子9名、女子11名に、ユースナショナルチーム男子11名、女子9名の総勢40名が選ばれました。新たに加入する選手は4月1日よりメンバーとして活動します。

【2019年度メンバー】

▽ナショナルチーム男子
佐々木智之（神奈川／キャプテン）、安里秀策（和歌山／バイスキャプテン）、宮澤拓哉（群馬）、井口遼太（東京／新）、高平沙也斗（愛知）、堤祐樹（奈良／新）、原口優馬（長崎／ユースより昇格）、徳久恵大（長崎／ユースより昇格）、村濱裕紀（沖縄）

▽ナショナルチーム女子
佐藤悠里（神奈川／キャプテン）、今井双葉（熊本／バイスキャプテン）、大河内未来（福島）、北村恵（東京）、竹川ひかる（岐阜）、入江菜々美（岐阜）、谷原美来（岐阜）、大林令奈（岡山／ユースより昇格）、森内菜摘（徳島／新）、泉宗心音（愛媛／ユースより昇格）、石本美来（学生連合）

▽ユース男子
菅野直人（神奈川／新）、畑秀明（神奈川）、高平雄生（富山／新）、勝又七夢（静岡／新）、齋藤翔（愛知／新）、林元輝（愛知）、立花和貴（兵庫／新）、淺川啓大（兵庫／新）、新舎拓巳（岡山）、福満亮（長崎／新）、藤永北斗（熊本／新）

▽ユース女子
渡辺莉央（群馬／新）、近藤眞桜（群馬／新）、野仲美咲（東京／新）、諏訪汐香（神奈川／新）、鈴木波流（静岡／新）、水谷秋穂（愛知）、近藤菜帆（愛知／新）、石本恵梨奈（大阪／新）、立花沙貴（兵庫／新）

今井双葉がYMSFスポーツチャレンジ助成対象者に

（公財）ヤマハ発動機スポーツ振興財団（YMFS）の2019年度スポーツチャレンジ体験助成対象者に今井双葉（熊本・熊本学園大学）が選ばれました。

世界選手権大会2017男女大会の女子シングルス戦金メダリストである今井は、この春大学卒業と同時に全日本ナショナルチームのバイスキャプテンに。サポートを受けながら国内や国際大会でさらに活躍しボウリングの魅力を伝えることを目指していきます。

2019年度 会員登録のごあんない

2019年度の会員継続及び新規の会員登録は次の通り実施いたします。

一、継続会員登録

2018年度の登録会員が資格者です。

①個人正会員
JBC個人正会員登録申請書（様式A－1）に必要事項を記入し、所属団体を通じ提出。（会員証は2018年度～2020年度用を使用、赤ライン）

②個人普通会員
JBC個人普通会員登録申請書（様式B－1）に必要事項を記入し、所属団体を通じ提出。（会員証は2018年度～2020年度用を使用、青ライン）

③実業団会員
JBC実業団登録申請書（様式C－1）及び実業団登録会員名簿（様式C－2）に必要事項を記入し（登録メンバー数を確認し実業団代表者又は人事管理者の確認印を押印）、所属団体を通じ提出。（会員証は2018年度～2020年度用を使用、オレンジライン）

④学生会員
JBC学校（大学）登録申請書（様式U－1）及び学生（大学）登録部員名簿（様式U－2）に必要事項を記入し、全日本学生連合を通じ提出。（会員証は2018年度～2020年度用を使用、水色ライン）

⑤高等学校登録会員
JBC高等学校登録申請書（様式H－1）及び高等学校登録会員名簿（様式H－2）に必要事項を記入し、所属団体を通じ提出。（会員証は2018年度～2020年度用を使用、ピンク色ライン）

⑥ジュニア会員
JBCジュニア会員登録申請書（様式J－1）に必要事項を記入し、所属団体を通じ提出。（会員証は2018年度～2020年度用を使用、黄緑色ライン）

※継続会員登録期限は2019年3月31日までです。この期限を過ぎますと、すべて新規扱いとなりますので早めに所属団体において手続きを完了して下さい。

二、新規会員登録

新たに会員になる人は、随時加入することが出来ます。

◎個人正会員（新規用・様式A－2）、個人普通会員（新規用・様式B－2）、及び実業団会員、学生会員、高等学校登録会員、ジュニア会員（以上4区分は新規、継続併用）に必要事項を記入し、所属団体を通じ提出。

【注意事項】

(1)氏名は会員登録規程に従い記入し、必ずフリガナをつけること。

(2)住所、生年月日（2019年4月1日現在の満年齢）、職業、電話番号を記入のこと。

(3)個人、ジュニア会員は特に支部名・クラブ名を記入のこと。

(4)学生会員については、継続、新規に関わらず出身高等学校名を記入のこと。

(5)ジュニア会員は、支部名・クラブ名、学校名または勤務先名を忘れずに記入すること。

(6)個人正会員から実業団会員に、実業団会員から個人正会員に移動登録する場合は、継続扱いとなり入会金は不要です。

(7)個人普通会員から個人正会員及び実業団会員になる場合は新規扱いとなります。

(8)個人正会員、実業団会員の会員番号は永久番号となります。

(9)年度会費の納入確認として、会員証の裏面に年度別会費納入シール（2019年度は赤色）を貼付します。

(10)その他、ご不明の点は都道府県連盟及び全日本学生連合にお問い合わせ下さい。

第68回日本スポーツ賞 授賞式に佐々木・和田が出席

第68回日本スポーツ賞（読売新聞社制定）の授賞式が1月11日㈮に東京都内で開かれました。競技団体別最優秀賞に選ばれたアジア大会男子トリオチームから、佐々木智之（神奈川・湘南モノレール㈱）と和田翔吾（和歌山・和歌山県海草振興局建設部）が出席、表彰状とトロフィーを受け取りました。

表彰式に臨んだ和田（左）と佐々木

東京運動記者クラブ表彰

第18回アジア競技大会の女子マスターズ戦優勝の石本美来（学連・岡山商科大学）が東京運動記者クラブ・ボウリング分科会の2018年度アマチュア最優秀選手に選ばれました。

1月22日㈫に開催された（公社）日本ボウリング場協会賀詞交歓会で執り行われた表彰式では、所用により欠席した石本選手に代わり北川薫協会会長が表彰楯を受けました。

専門委員会レポート

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度 資格名が変わります

指導委員会

（公財）日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度が2019年度より改定されます。特に、各指導者資格の名称が変更され下記のとおりとなります。

すでに資格取得されている方も2019年度以降は新資格名に切り替わります。

JBCでは今後も日本スポーツ協会公認ボウリング指導者資格の養成および登録管理を実施します。また各資格の養成講習会（ボウリング専門科目）は引き続きUSBC（アメリカボウリング協会）のコーチングマニュアルを採り入れるとともに、資格取得者にはJBC公認コーチ資格を併せて付与します。

なお、アメリカオリンピック委員会関連の立法措置により、2019年1月1日以降はアメリカ国内の指定機関においてハラスメント関連の講習会を受講し審査を受けなければコーチ資格認定されなくなりました。ただしJBCを通じてUSBCのコーチ資格を取得された方は「USBC承認JBC公認コーチ（仮称）」としてコーチング活動を行うことが可能です。今後も日本スポーツ協会の資格養成講習会（ボウリング専門科目）を修了し資格取得された方には、JBCコーチ認定証およびUSBCコーチ修了証が発行されます。

変更される指導者資格名称

（旧）指導員　→（新）コーチ1
（旧）上級指導員　→（新）コーチ2
（旧）コーチ　→（新）コーチ3
（旧）上級コーチ　→（新）コーチ4

連盟トピックス

アジアシニア3冠 鈴木英子選手が表敬訪問

福島県連盟

12月に沖縄で開催された第15回アジアシニア選手権大会の金メダリスト、鈴木英子選手（福島）が、1月21日㈪に内堀雅雄福島県知事を表敬訪問しました。

国体やNHK杯など国内主要大会で実績の高い鈴木選手ですが、国際大会は今回が初出場。女子シニアの部でシングルス戦、オールエベンツ（個人総合）、マスターズ戦の個人3種目で優勝を独占したことにも、「ボウリングは常に強い人が勝つスポーツではないので、運が良かったと思う」と謙虚に振り返り、内堀理事より一県のボウリングを盛り上げてほしい」と激励されました。

内堀知事（右）の激励を受けた鈴木選手（中）と伊藤協会理事

イベントカレンダー 3月＆4月

▽3月7日㈭　JBC公認ドリラー有資格者研修会・義務研修会　大阪・神崎川ダイドーボウル

▽3月8日㈮　JBC公認ドリラー有資格者研修会・義務研修会　福岡・博多スターレーン

▽3月21日（木・祝）～24日㈰　文部科学大臣杯第57回全日本選手権大会　愛知・稲沢グランドボウル

▽3月21日（木・祝）　平成30年度第4回理事会　愛知・稲沢グランドボウル

▽4月20日㈯～21日㈰　JBC公認第3種審判員認定会（西日本地区）　大阪・神崎川ダイドーボウル

▽4月29日（月・祝）～5月3日（金・祝）　全日本ナショナルチームメンバー強化合宿　長崎・大村Jボウル

2018年度 各連盟公認競技会・リーグ登録数

2019年2月26日　現在

地区名	連盟	競技会 公認件数	競技会 開催実数	リーグ 公認件数
北海道地区	北海道	31	96	4
東北地区	青森	30	70	
	岩手	21	103	
	宮城	30	118	
	秋田	20	58	
	山形	21	81	2
	福島	19	15	
関東地区	茨城	18		
	栃木	11	44	
	群馬	18	74	8
	埼玉	38	127	
	千葉	23	77	15
	東京	27	117	38
	神奈川	30	63	35
	山梨	27	85	
北信越地区	新潟	14		
	長野	13	68	2
	富山	23	110	2
	石川	22	47	20
	福井	9		
東海地区	静岡	68	182	22
	愛知	61	294	3
	三重	33	106	
	岐阜	33	66	
関西地区	滋賀	32	131	
	京都	59	144	11
	大阪	38	59	8
	兵庫	23	59	22
	奈良	17	15	
	和歌山	16	31	
中国地区	鳥取	13	29	
	島根	11	30	2
	岡山	51	135	1
	広島	14	22	6
	山口	13	29	25
四国地区	香川	19	40	1
	徳島	12	38	1
	愛媛	16	27	4
	高知	2	11	
九州・沖縄地区	福岡	52	141	86
	佐賀	11	13	14
	長崎	31	56	44
	熊本	23	52	74
	大分	14		21
	宮崎	28	100	14
	鹿児島	24	93	
	沖縄	23	73	22
全日本学生連合		15		7
総計		1,197	3,329	514

第47回 全日本クラブ対抗選手権大会

前回大会にて

同じポーズで記念撮影

今年は貫禄の勝利！ 東名クラブ 愛知

第47回全日本クラブ対抗選手権大会が1月18日㈮から20日㈰にかけて、京都・しょうざんボウル（公競No.126-037）で開催された。全国84のクラブチームの中から日本一を決定する大会で、東名クラブ（愛知）が連覇を達成した。大接戦の末に初優勝だった昨年と打って変わって、2位以下に大差で貫録の勝利を見せつけた。

開会式

1月18日㈮12時15分から開かれた開会式では、前回優勝の東名クラブ（愛知）から優勝杯が返還された。北川薫協会会長の挨拶を佐藤直亮常務理事が代読し、大会を主管する（一社）京都府ボウリング連盟の田坂幾太会長（協会理事）が歓迎のことばを述べた。

競技規程説明・認証報告と審判団の紹介に続き、京都府代表・洛陽総合高校の荒木紘人選手が選手宣誓し、開会式を滞りなく終了した。

佐藤常務理事

京都府連盟田坂会長

ベーカーH／G　港クラブ

チームH／G、H／S　博多スターレーンクラブ

個人H／G、H／S
川上（左）、小泉

競技

予選1回戦はベーカー方式で行われた。過去2度優勝の実力チーム・関大前FUTA BAクラブA（大阪）がスタートから266の高ゲームをマーク、8ゲームで1723とし首位発進した。

2回戦と3回戦は5人×3ゲーム。10位につけていた前回覇者の東名クラブ（愛知）は3333Oのビッグスコアをたたき出すと、114ピン差を一気に返してトップに立った。和歌山グランドクラブB（和歌山）と博多スターレーンクラブ（福岡）が東名クラブを3マーク差で追った。

東名クラブは3回戦で382の好スコアにまとめるも、それを上回るチームが続出。博多スターレーンクラブは今大会チームH／Sの3424をたたき出して1位通過を決めた。早稲田大学（学連）も3320とし5位から2位に浮上。3位に東名クラブと続いて、上位24チームが決勝戦に進出した。

ベーカー方式で1対1の対戦を繰り返す決勝戦。Aグループでは尾西クラブ（愛知）が5ゲームを終えてトップ、カニエクラブ（愛知）が13ピン差で続いた。6ゲーム目の直接対決ではともに213で引き分け。しかし尾西クラブは後半失速してしまう。カニエクラブはスコアを伸ばして5ゲーム3勝と順調だったが、大田クラブ（東京）が最終ゲームに268をマークして大逆転した。

Bグループでは東名クラブが他を圧倒。スタートから負けなしで進み5ゲーム目の時点で1281とし、2位の早稲田大学に194ピン差をつけた。6・7ゲームは勝ち星を取れなかった東名クラブだが、8ゲーム目に266をたたき出してからは4連勝で、ダントツの首位をキープした。

ラスト2ゲームを前に全体トップは東名クラブの2656。2位は同じBグループのキャッスルボウル福山クラブ（広島）で169ピン差がついた。東名クラブは大田クラブとの対戦で、1ゲーム目に236をマークして快勝。2ゲーム目も217とし勝ポイントを加算した。ポジションマッチだけでも全体トップのスコアをマークした東名クラブは、連覇にふさわしい強さを見せて大会を終えた。

宣誓する荒木選手

ハイタッチを交わす東名クラブ

ガイド

全日本クラブ対抗選手権は5人チーム戦。予選は1回戦がベーカー方式（8ゲーム）で、2・3回戦がレギュラー方式（各3ゲーム）。トータルピンの上位24チームが決勝に進出する。

決勝は2つのグループに分かれてラウンドロビン（総当たり戦）を行い、各グループの同順位チームがポジションマッチ（2ゲーム）で対戦する。各ゲーム、勝利チームにはボーナスポイント20点がスコアに加算され、総スコアの合計で順位を決定する。

第47回全日本クラブ対抗ボウリング選手権大会 成績表

2019年1月18日（金）～20日（日）
参加：84チーム 431名　会場：京都・しょうざんボウル

決勝ラウンドロビン（ベーカー方式）　13G

優勝	東名クラブ	（愛知）	田村浩也 桑原達也 村田大輔 登川一真 小泉和也	3,149
準優勝	キャッスルボウル福山クラブ	（広島）	波多春市 門田裕美 門田修 田辺雅亨 高橋忠夫	2,904
第3位	岡山商科大学	（学生連合）	野村経博 大西蓮 菊地彩夏 上原朋久 川崎未来	2,844
第4位	博多スターレーンクラブ	（福岡）	高木遼介 向谷優那 樋口幹人 高良舜祐 山口奈瑠美	2,832
第5位	早稲田大学	（学生連合）	岸崎大知 白間海渡 小野在由 山下諄也 佐古健太郎	2,831
第6位	カニエクラブ	（愛知）	鮫島蓮 大笹裕豊 東莉大 水谷秋穂 佐藤宇宙	2,806
ﾚｷﾞｭﾗｰ方式 ﾁｰﾑﾊｲｹﾞｰﾑ	博多スターレーンクラブ	（福岡）	高木遼介 向谷優那 樋口幹人 高良舜祐 山口奈瑠美	1,242
ﾚｷﾞｭﾗｰ方式 ﾁｰﾑﾊｲｼﾘｰｽﾞ	博多スターレーンクラブ	（福岡）	高木遼介 向谷優那 樋口幹人 高良舜祐 山口奈瑠美	3,424
ベーカー方式 ﾁｰﾑﾊｲｹﾞｰﾑ	港クラブ	（東京）	堤真人 大森遼 鳥本隆義 大塚鷹美 山田祥徳	299
個人ﾊｲｹﾞｰﾑ	川上智道	（岡山）	アミパラボウルクラブ	299
個人ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	小泉和也	（愛知）	東名クラブ	766

JBC会長杯 第34回全日本年齢別選手権大会

ＪＢＣ会長杯第34回全日本年齢別選手権大会が2月9日(土)から11日（月・祝）にかけて神奈川・川崎グランドボウル（公競№．114・023）で開催された。

19歳以下の部で伊勢川華愛（和歌山）が昨年と同じスコアをマークしての連覇を果たした。20歳代は大河内未来（福島）が初優勝を飾り、30歳代優勝の菊地慎（神奈川）は6年前の20歳代制覇に続く優勝を決めた。

40歳代は笠原直幸（神奈川）、50歳代は門田裕美（広島）、60歳代は林田尚恵（島根）がともに大会初優勝。新設された70歳以上の部では倉橋敏夫（千葉）が初代王者に輝いた。

開会式

大会初日の2月9日(土)、12時30分から開会式が挙行された。出場各都道府県と学生連合の旗が入場行進。北川薫協会会長のメッセージを齋藤良太郎専務理事が代読した。

競技規程説明・認証報告と審判団の紹介に続き、神奈川県代表の畑秀明選手が選手宣誓して開会式を締めくくった。

宣誓する畑選手

競技

19歳以下の部

伊勢川華愛（和歌山）が752で大会連覇へ好スタートを切った。とはいえ2位の米村公希(福岡)は6ピン差、3位徳久恵大（長崎）も8ピン差という大接戦。2回戦では米村と徳久が順位を落とした一方で、伊勢川は695と好調。729と打ち上げた鈴木彪雅(東京)に4ピン差まで迫られたが1位をキープした。

3回戦、伊勢川は649、鈴木も640で順位は変わらず。依然13ピンの僅差で勝負の決勝戦に突入した。すると1ゲーム目に伊勢川は294をマークし、鈴木に122ピン差をつけた。勝負あったかと思われたがここから鈴木が猛チャージ、2ゲーム目の258で83ピン差まで縮めると、最終ゲームは気合の雄叫びを上げながらの280で逆転に望みをつないだ。

鈴木が投了してから迎えた伊勢川の最終フレーム。スペアと6本以上で勝利が決まる場面を冷静に乗り切り、4ピン差で優勝を決めた。そのスコアは昨年の初優勝と全くの同点だった。

20歳代の部

吉田大祐（愛知）が3ゲーム目にパーフェクトを達成。1回戦を761としトップで滑り出した。山崎昭太（富山）が3ピン差で2位に、佐古健太郎（学連）は吉田と11ピン差で3位につけた。さらに4ピン差で4位の藤原聖佳（神奈川）は2回戦で720。687にまとめた吉田を18ピン上回って首位ターンした。

3回戦、藤原は649として1位で決勝進出を決めた。佐古が705をマークして藤原と8ピン差の2位に。吉田は658で3位に後退するも佐古と1ピン差で、上位22名による決勝戦に突入した。

決勝1ゲーム目に吉田が231で再びトップに。すると2ゲーム目には藤原が271でさらに逆転を決めた。この間、7位通過の大河内未来（福島）は259・249をマークして2位まで順位を上げてきた。

藤原は大河内に47ピンのリード。残り1ゲームでは大きな差だったが、勢いをつなげた大河内は245とし逆転に成功した。

30歳代の部

1回戦、木村仁（東京）は3ゲーム目の279を活かして725とした。2位の宍戸潤一（神奈川）は715、3位日比正裕（愛知）は704と、この部門も接戦模様の出足に。5位につけていた柴田秀美（神奈川）は2回戦で721とし1位に。鶴見亮剛（神奈川）も750と打ち上げて2位に浮上し、上位の顔ぶれが一気に入れ替わった。

3回戦では日比が730、1位で決勝進出を決めた。18ピン差の2位に篠原千絵（和歌山）、3位には大槻絵里子（神奈川）と続いて、12名が決勝戦に進出した。

決勝1ゲーム目、大槻が243で日比を逆転した。6位通過の菊地慎（神奈川）は236の後、2ゲーム目にも259をマーク。上位を一気に抜き去った。大槻は59ピン差をつけられ、柴田も62ピン、日比も66ピンのリードを許す状況。最終ゲームは日比が245で逆転を狙うも、212とした菊地が優勝をものにした。

6年前に20歳代で優勝経験のある菊地は強豪・横浜南陵高校ボウリング部で顧問も務めている。生徒やOBが見守る中での優勝劇となった。

ガイド

19歳以下、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、そして今回から70歳以上の部が加わり、7つの世代ごとに優勝を争う大会となった全日本年齢別選手権大会。男女混合戦で、予選9ゲーム、決勝3ゲームのトータルスコアで順位を決定する。女子には1ゲーム15ピン、60歳以上の部では70歳超の選手に5ピンのハンディキャップが加算される。

19歳以下の部は入賞6名が全員高校生。優勝の伊勢川と準優勝の鈴木は、「ボウリングの甲子園」川崎グランドボウルでの全国高校対抗選手権でも優勝の実績がある。

また伊勢川は連覇、30歳代の部優勝の菊地は6年ぶりの優勝で2部門制覇など、歴代年齢別覇者の傾向（複数回優勝者が多数）を継ぐ優勝者も生まれた。

伊勢川華愛	19歳以下の部	
	和歌山県	18歳
使用ボール	Maverick2(15p)	
公認ドリラー	喜多真也	（公認No.　0178-30　）

大河内未来	20歳代の部	
	福島県	
全日本ナショナルチームメンバー		22歳
使用ボール	Lit(15p)	
公認ドリラー	花本正人	（公認No.　0034-08　）

菊地　慎	30歳代の部	
	神奈川県	32歳
使用ボール	Power Cell(15p)	
公認ドリラー	佐々木智之	（公認No.　1549-14　）

笠原直幸	40歳代の部	
	神奈川県	46歳
使用ボール	Black Jackal(15p3oz)	
公認ドリラー	黒川　靖	（公認No.　0285-14　）

19歳以下の部

40歳代の部

20歳代の部

50歳代の部

30歳代の部

60歳代の部

40歳代の部

1回戦は森下美紀（京都）が699でトップ。679で2位につけた笠原直幸（神奈川）は2回戦も696とし逆転した。2位にも698を打った藤澤直毅（神奈川）が4位から順位を上げてきた。

笠原の安定感は3回戦でも。238・246・236にまとめて720とした。森野華世（東京）も695を打って2位につけたが、109ピンもの大差がついた。

しかし決勝に入って笠原は205・188とスコアが伸びず。森野も2ゲームで391にとどまり差は動かなかった。いったん3位に後退していた藤澤は237・224と打ち上げたが、笠原は依然100ピン超のリードを保っていた。

最終ゲームでは森野が243と追い上げたが、笠原はリードを活かして逃げ切り初優勝を決めた。

50歳代の部

1回戦は707の石川信行（愛知）がトップ、梅田久徳（三重）が13ピン差、安藤覚（大分）が14ピン差で続いた。6位発進の安藤寿英（大阪）が2回戦で738を打ち、6ゲーム1385までスコアを伸ばした。722をマークした高橋隆（神奈川）が2位に浮上し、梅田は3位につけた。

3回戦では門田裕美（広島）が702にまとめて9位から首位を奪った。梅田は2位で22ピン差、3位の松野琴美（東京）は門田と33ピン差で、接戦のまま22名による決勝戦が始まった。

ビッグゲームにつながらない梅田と松野に対し、門田は250・260と快調にスコアを伸ばしていった。最終ゲームを残して2位梅田に12ピンのリードを作った門田。優勝を手中に収めて迎えた最後の1投では大きな手拍子が。207で締めくくり初優勝を飾った。

60歳代の部

昨年までは70代以上の選手も含めた最高齢部門だったが、選手層の厚さから独立して60歳代のみに。1回戦は西村沙池子（愛知）が676でトップに立つと、地元神奈川が誇る「村上兄弟」の兄・武男が4ピン差で2位、弟・悦男が15ピン差で3位に続いた。

2回戦では村上武男が606とし、1278でトップに。2位集団は1250台に4人がひしめく混戦模様となった。

3回戦で佐藤一雄（東京）が3ゲームとも230台にまとめて、ついに700の壁を突破。9ゲーム1934のスコアで1位通過を決めた。村上武男は30ピン差の2位、柳川弘行と中島康昭（山梨）がさらに9ピン差で続き、22名が決勝戦に駒を進めた。

すると決勝戦、10位通過の林田尚恵（島根）が1ゲーム目に256をマークした。予選終了時点ではトップと87ピン差があったが、スコアが伸びなかった上位陣を一気に抜き去った。2ゲーム目には村上武男と中島がともに230台を打ったが、林田も215で首位をキープ。村上は15ピン、中島は22ピンの差で、勝負が持ち越された最終ゲーム。林田は236で締めくくり自ら優勝をもぎ取った。

70歳以上の部

70歳以上の部

小玉眞（神奈川）の680をトップに、5位まで25ピンという僅差でスタートした新部門・70歳以上の部。年齢のイメージを覆す高スコアのトップ争いが展開された。

2回戦でも小玉は674で首位をキープしたが、4位につけていた前田良一（石川）は685を打ち1ピン差に。倉橋敏夫（千葉）も1回戦の673に続く667で3位に留まった。小玉は3回戦で590とスコアが伸びず、倉橋に2ピン差まで迫られた。吉永哲哉（東京）が657を打って3位に浮上、倉橋とは12ピン差につけた。

10名による決勝戦。吉永は1ゲーム目の226で逆転した。3ピンを追う立場となった倉橋だったが、2ゲーム目に246をマークして、ここでついにトップを奪った。

70ピン差をつけられた小玉は最後に255で猛追。しかし倉橋も235で締めくくって、この部門最初の王座に就いた。

門田裕美	50歳代の部	
	広島県	52歳
使用ボール	IQ Tour Ⅱ(15p1oz)	
公認ドリラー	塩出哲也	（公認No.　1510-34　）

林田尚恵	60歳代の部	
	島根県	62歳
使用ボール	Katana Izayoi(15p)	
公認ドリラー	中村邦男	（公認No.　0057-32　）

倉橋敏夫	70歳代の部	
	千葉県	73歳
使用ボール	Raw Hammer Rebelion(15p5oz)	
公認ドリラー	志釜賢一	（公認No.　1528-12　）

吉田大祐	パーフェクト	
	愛知県	
全日本ナショナルチームメンバー		27歳
使用ボール	Venom Shock Pearl(15p)	
公認ドリラー	坂野忠憲	（公認No.　0112-22　）

パーフェクト 300 吉田大祐選手が達成

第34回全日本年齢別選手権大会において、吉田大祐選手（愛知）が大会第28号となるパーフェクトゲームを達成、主催大会公認第446号として認定された。

吉田選手には会場の川崎グランドボウルより記念品が贈呈された。

H／G（左から）東海、吉田、木村、森野、小沢、井出、村上、野澤

ＪＢＣ会長杯　第34回全日本年齢別ボウリング選手権大会　成績表

2019年2月9日(土)～11日(月・祝)
参加：482名　会　場：神奈川・川崎グランドボウル

《19歳以下の部》12G

優勝	伊勢川華愛	（和歌山）	2,810
準優勝	鈴木彪雅	（東京）	2,806
第３位	水谷秋穂	（愛知）	2,747
第４位	山田悠畝奈	（愛知）	2,742
第５位	菅野直人	（神奈川）	2,739
第６位	植松智之	（静岡）	2,717

《20歳代の部》12G

優勝	大河内未来	（福島）	2,785
準優勝	藤原聖佳	（神奈川）	2,770
第３位	金子猛	（新潟）	2,754
第４位	田中椋也	（石川）	2,752
第５位	佐古健太郎	（学連）	2,739
第６位	吉田大祐	（愛知）	2,723

《30歳代の部》12G

優勝	菊地慎	（神奈川）	2,718
準優勝	日比正裕	（愛知）	2,685
第３位	柴田秀美	（神奈川）	2,685
第４位	小倉康輔	（千葉）	2,680
第５位	大槻絵里子	（神奈川）	2,675
第６位	篠原千絵	（和歌山）	2,624

《40歳代の部》12G

優勝	笠原直幸	（神奈川）	2,675
準優勝	森野華世	（東京）	2,620
第３位	藤澤直毅	（神奈川）	2,613
第４位	大月光浩	（愛知）	2,567
第５位	谷津尚行	（茨城）	2,523
第６位	山本亜津砂	（東京）	2,512

《50歳代の部》12G

優勝	門田裕美	（広島）	2,687
準優勝	山中貴美	（高知）	2,561
第３位	梅田久徳	（三重）	2,545
第４位	松野琴美	（東京）	2,533
第５位	渡邊美和	（福岡）	2,511
第６位	近江雅久	（神奈川）	2,507

《60歳以上の部》12G

優勝	林田尚恵	（島根）	2,554
準優勝	中島康昭	（山梨）	2,507
第３位	村上武男	（神奈川）	2,493
第４位	柳川弘行	（三重）	2,479
第５位	前田長一	（千葉）	2,477
第６位	山下充	（山梨）	2,471

《70歳以上の部》12G

優勝	倉橋敏夫	（千葉）	2,634
準優勝	小玉眞	（神奈川）	2,584
第３位	吉永哲哉	（東京）	2,571
第４位	髙橋賢二	（神奈川）	2,545
第５位	杉山憲良	（静岡）	2,515
第６位	中村英紀	（茨城）	2,486

《ハイゲーム》

19歳以下	東海純	（学連）	289
20歳代	吉田大祐	（愛知）	300
30歳代	木村仁	（東京）	279
30歳代	森野丈栄	（東京）	279
40歳代	小沢弘幸	（福井）	279
50歳代	井出浩二	（東京）	290
60歳代	村上武男	（神奈川）	276
70歳以上	野澤俊之	（千葉）	289

第36回 全日本実業団都市対抗選手権大会

タイトルホルダーに仲間入り

久世ベローズ工業所 石川

第36回全日本実業団都市対抗選手権大会が2月1日(金)から3日(日)にかけて東京・東大和グランドボウル（公競No.113・112）で開催された。75チームの中から予選を勝ち抜いた24チームがベーカー方式で優勝を争い、久世ベローズ工業所（石川・津幡町）が初制覇。実業団界での台頭が目覚ましい石川県から、新たなタイトルホルダーが誕生した。

開会式

2月1日(金)14時から開会式が執り行われた。前回優勝の金沢市役所（石川）から優勝杯が返還され、開幕の準備が整った。

実業団連合
丹羽会長

競技

全日本実業団連合の会長を務める丹羽秀樹協会副会長が選手を激励。競技規程説明・認証報告と審判団の紹介があり、東京都代表（千代田区）の東京消防庁・長谷川雅宣選手による選手宣誓があり、3日間の競技がスタートした。

2年ぶりの優勝を狙うエナジックインターナショナル（沖縄・北谷町）は予選1回戦、2・3ゲーム目に955・949とビッグゲームをマーク。3ゲームで2677とし1位でスタートを切った。ユニプレス（静岡・富士市）も22ピン差で2位につけて2回戦、4位につけていた神奈川県実業団OBクラブ（神奈川・川崎市）は2648と打ち上げてトップを奪った。エナジックインターナショナルは2ピン差で2位、ユニプレスはさらに28ピン差で3位と続いた。

3回戦のエナジックインターナショナルは全員全ゲーム200UPと会心の出来。チームハイシリーズとなる2732をたたき出して余裕のトップ通過となった。ユニプレスも2位をキープ、3位には日本精工藤沢（神奈川・藤沢市）が浮上して、決勝進出の24チームが決定した。

スコアをリセットして行う決勝戦、そのメリットを生かして12位通過の久世ベローズ工業所（石川・津幡町）が飛ばした。2ゲーム目から5連勝して、6ゲーム終了時点で1374でA組のトップに。同じA組で16位通過のオリロー（埼玉・比企郡）も5勝1敗で30ピン差の2位につけた。この両チームは7ゲーム目に直接対決、オリローが勝利して逆転した。しかし8ゲーム目から久世ベローズ工業所が全て200UP。トップを奪ってポジションマッチを迎えた。

B組は10位通過のデンソーA（愛知・刈谷市）が7ゲーム目にトップに立ち、A組トップの2チームとほぼ互角のスコアで試合をリードしていた。その後接戦で勝ち星を奪い合う展開となったB組は点が伸び悩み、デンソーAも全体6位に留まった。

残り2ゲームの時点で、前回優勝の金沢市役所A（石川・金沢市）も全体2位に浮上してきた。しかし55ピンのリードを持つ久世ベローズ工業所は、デンソーAとのポジションマッチで228・204とし2連勝。余裕で逃げ切り初優勝を遂げた。

金沢市役所Aもしっかり2勝して準優勝し、3位には第31回優勝のJFE福山（広島・福山市）が入って実力を示した。4位にも北陸電力石川支店A（石川・金沢市）が入ったことで、石川県勢の存在感が際立った今大会となった。

宣誓は東京消防庁
長谷川選手

入賞チーム

決勝を戦う久世ベローズ工業所

チームH／G　神奈川実業団OBクラブ、
H／S　エナジックインターナショナル

ベーカーH／G
エナジックインターナショナル

パーフェクト300

第36回全日本実業団都市対抗選手権大会において、春田恒平選手（茨城・日立製作所）と府川裕行（神奈川・神奈川県実業団OBクラブ）が大会第16・17号となるパーフェクトゲームを達成、協会主催大会公認第444・445号パーフェクトゲームとして認定された。

春田恒平	日立製作所・大みか 茨城県
全日本ナショナルチームメンバー	28歳
使用ボール	Hy-Road X(15p)
公認ドリラー	椎名豊史　（公認No. 0035-08 ）

府川裕行	県実業団OBクラブ 神奈川県	59歳
使用ボール	Nanodesu Accu-Line Tour Premium(15p)	
公認ドリラー	和田龍康　（公認No. 0101-14 ）	

パーフェクトの春田（左）と府川

第36回全日本実業団都市対抗ボウリング選手権大会 成績表

参加：52都市
75チーム　329名

2019年2月1日（金）～3日（日）
会場：東京・東大和グランドボウル

《4人チーム戦（決勝ベーカー方式）》

優勝	久世ベローズ工業所（石川・津幡町）	河合昭彦・南谷隆 田中智之・脇坂裕貴	2,905(180)
準優勝	金沢市役所A（石川・金沢市）	清水正弘・松原真珠 奥村一世・中倉啓太	2,858(160)
第3位	JFE福山（広島・福山市）	矢野徹・東孝行・石井浩次 鉾崎浩二・松藤信明	2,844(200)
第4位	北陸電力石川支店A（石川・金沢市）	渡邊元造・由水伸弥 安田昌樹・田中椋也	2,834(140)
第5位	オリロー（埼玉県・比企郡）	佐渡山肇・山越貢・前島京介 小林彌・加瀬真純	2,791(180)
第6位	エナジックインターナショナル（沖縄・北谷町）	石嶺可奈子・幸喜将太 我那覇隆也・村濱裕紀	2,776(160)
レギュラー方式 チームハイゲーム	神奈川県実業団OBクラブ（神奈川・川崎市）	安藤博・長谷川孝嘉 府川裕行・広津守人	976
ベーカー方式 チームハイゲーム	エナジックインターナショナル（沖縄・北谷町）	石嶺可奈子・幸喜将太 我那覇隆也・村濱裕紀	274
チームハイシリーズ	エナジックインターナショナル（沖縄・北谷町）	石嶺可奈子・幸喜将太 我那覇隆也・村濱裕紀	2,732
個人ハイゲーム	春田恒平	日立製作所・大みか（茨城・日立市）	300
個人ハイゲーム	府川裕行	神奈川県実業団OBクラブ（神奈川・川崎市）	300
個人ハイシリーズ	春田恒平	日立製作所・大みか（茨城・日立市）	832

ガイド

実業団都市対抗選手権は4人チーム戦。予選は4人×9ゲームを行い、合計スコアの上位24チームが決勝戦に進出する。決勝戦に予選のスコアは持ち越されず、4人がが1フレーム交代で1つのゲームを完成させる「ベーカー方式」で優勝を争う。

決勝進出チームはA・Bの2グループに分かれ、まず各組の12チームが1ゲームマッチの総当たり戦を行い、続いて各グループの同順位チームがポジションマッチ2ゲームを行う。各ゲームの勝利チームにはボーナス20点が加算され、スコアの合計で順位を決定する。

石川県からは今回、金沢市役所（前回大会優勝）、北陸電力石川支店（2017実業団選手権優勝）と久世ベローズ工業所が表彰台に。この3チームは2018実業団産業別選手権でも決勝大会で入賞している。久世ベローズ工業所が全国制覇も果たしたことで、新たな「実業団王国」の呼び声も高まっている。

第50回 全日本大学個人選手権大会

第50回全日本大学個人選手権大会が2月14日㈭から16日㈯にかけて京都・キョーイチボウル宇治（公競No.1226-063）で開催された。

男子は2年前の覇者、野村経博（岡山商科大学）が追い上げを振り切るかたちで王座に返り咲いた。

女子は3連覇中の石本美来（岡山商科大学）と全日本選手権マスターズ準優勝の照山莉央（名古屋産業大学）がデッドヒートの末、照山が初の頂点を極めた。

開会式

大会初日の2月14日㈫、11時45分から行われた開会式。前回大会優勝の高木遼介選手（日本経済大学）と石本美来選手（岡山商科大学）から優勝杯が返還され、協会副会長でもある全日本学生連合の吉岡英隆会長が主催者として選手に激励を送った。（一社）京都府ボウリング連盟の田坂幾太会長（協会理事）も来賓として駆けつけられ祝辞をいただいた。

学生連合 吉岡会長

京都府連盟 田坂会長

学生連合 小池委員長

全日本学生連合の小池克彦委員長が訓辞を述べ、競技規程説明・認証報告に続いて高木選手と石本選手が力強く選手宣誓を行った。

石本（左）、高木両選手が宣誓

ガイド

全日本大学個人選手権大会には全日本学生連合の選手と都道府県連盟に所属する大学生選手が出場し、大学生No.1ボウラーの座を争う。

予選（4回戦×3ゲーム）・準決勝（2回戦×3ゲーム）・決勝（3ゲーム）を行い、21ゲームの合計スコアで順位を決定する。

大会史上、女子は3連覇が最長記録（第9～11回、牧野優美選手）で、今大会で石本美来選手が4連覇に挑戦したが叶わず、最多タイ記録として確定した。男子は第34・35回大会の高橋俊彦選手による連覇記録がある。今大会で野村経博選手は優勝回数記録としては最多に並んだ。

競技

女子の部

谷原美来（朝日大学）が1回戦2ゲーム目に290。このビッグゲームを活かして726とし首位発進した。2位の早川知里（金城学院大学）は31ピン差。2回戦では照山莉央（名古屋産業大学）が717と打ち上げて、7位からトップを奪った。谷原は15ピン差で2位、早川はさらに39ピン差で3位と続いた。

大会3連覇中の石本美来（岡山商科大学）は早川と4ピン差の4位につけると、3回戦で706をマーク。ここでトップに立った。20ピンの僅差で追う照山は4回戦に640とし、602に留まった石本を再び逆転した。

準決勝前半、照山は257・216・279とし752のビッグシリーズ。石本との差を一気に145ピンまで広げた。後半は一転557とスコアを落としてしまうが、依然102ピンの大量リードを持って、照山が決勝へトップ通過した。

照山は決勝戦でも苦戦が続き540。準決勝後半に716と打ち上げた山口奈瑠美（日本経済大学）が石本をもの逆転して迫ってきたが、59ピン差を残して優勝を決めた。

H/G、H/S（左から）谷原、小林、照山

男子の部

1回戦は佐古健太郎（早稲田大学）が733でトップ。2位の石川新（青森中央学院大学）も700UPした。佐古は2回戦も首位をキープしたが、12ピン差で2位の鈴木健也（関東学院大学）から5位までがトップと3マーク差内でひしめく混戦模様となった。

その5位につけていた2年前の覇者・野村経博（岡山商科大学）は3回戦で779をマーク。首位を奪っただけでなく、2位の植松智之（常葉大学）に92ピンの大差をつけた。野村は4回戦も662にまとめると、2位まで順位を戻した佐古とは139ピン差で1位通過を決めた。

野村は準決勝前半も655。2位以下の混戦がさらにリードを広げる結果となり、2位の橋本光司（常葉大学）は174をつけられた。ところがここまで順調だった野村は準決勝後半で568とスコアを落としてしまう。このタイミングで石川が722と巻き返し、65ピン差まで迫ってきた。

逆転の可能性も見えてきた決勝戦だったが、石川は533で後退。野村も1・2ゲーム目で170台が続き苦戦していた。そこへ、準決勝で781をマークして勢いに乗る小林本気（大阪国際大学）が徐々に差を詰めてきた。最終ゲームを残して41ピン差。小林は239で締めくくったが、野村もなんとか203とし、5ピン差でかわして2度目の優勝となった。

野村経博	男子優勝	21歳
	岡山商科大学	
使用ボール	Marvel Maxx Elite(15p3oz)	
公認ドリラー	野呂昌史	（公認No.　0808-26　）
照山莉央	女子優勝	21歳
	名古屋産業大学	
使用ボール	Marvel Maxx Elite(15p)	
公認ドリラー	榎本岳彦	（公認No.　B1526-14　）

男子の部

女子の部

第50回全日本大学個人ボウリング選手権大会 成績表

男子　147名　　2019年2月14日(木)～16日(土)
女子　40名　合計 187名　　京都・キョーイチボウル宇治

《男子の部（21G）》　2年ぶり2度目

優勝	野村経博	（学生連合・岡山商科大学）	4,542
準優勝	小林本気	（大阪・大阪国際大学）	4,537
第3位	山下諄也	（学生連合・早稲田大学）	4,517
第4位	高木遼介	（福岡・日本経済大学）	4,507
第5位	石川新	（学生連合・青森中央学院大学）	4,458
第6位	植松智之	（静岡・常葉大学）	4,453
ﾊｲｹﾞｰﾑ	小林本気	（大阪・大阪国際大学）	289
ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	小林本気	（大阪・大阪国際大学）	781

《女子の部（21G）》　初優勝

優勝	照山莉央	（学生連合・名古屋産業大学）	4,459
準優勝	山口奈瑠美	（福岡・日本経済大学）	4,400
第3位	石本美来	（学生連合・岡山商科大学）	4,365
第4位	早川知里	（愛知・金城学院大学）	4,349
第5位	谷原美来	（岐阜・朝日大学）	4,337
第6位	大林令奈	（岡山・IPU環太平洋大学）	4,298
ﾊｲｹﾞｰﾑ	谷原美来	（岐阜・朝日大学）	290
ﾊｲｼﾘｰｽﾞ	照山莉央	（学生連合・名古屋産業大学）	752

競技アマチュア女子表彰（左から）岩元、堀井、桑田さん、石田

競技アマチュア男子表彰（左から）原口、斎藤、桑田さん、進

みんなのボウリング大会
★KUWATA CUP 2019★

写真提供：KUWATA CUP2019実行委員会

サザンオールスターズの桑田佳祐さんが旗振り役となって実現した「KUWATA CUP 2019みんなのボウリング大会」。2月10日(日)、渋谷ヒカリエホールに作られた特設レーンで決勝大会が開かれました。

ハウスボール・ハウスシューズで腕を競う「一般アマチュア部門」と「ジュニアアマチュア部門」に「プロ部門」そして多くのJBCボウラーが参加した「競技アマチュア部門」が設けられ、2018年11月からの全国予選会、2月8日(木)・9日(金)に行われた本大会を経て、ファイナリストが決勝大会に進みました。

競技アマチュア部門
優勝は斎藤祐太&堀井春花

桑田さんは元JBCボウラー。後輩にあたる選手たちも熱い勝負で大会に華を添えました。

男子のファイナリストは、NHK杯元王者の斎藤祐太（神奈川）、全日本ユースナショナルチームメンバーの原口優馬（長崎）、進博美プロを姉に持つ進貴行（大分）の3名。進がターキーで先行、斎藤は3フレーム目からの5連発で追いつくと、8フレーム目には原口と進がそろってスプリット。原口は残り全てストライクを決めましたが、斎藤も再びのターキーでトップを譲りませんでした。母子そろってサザンの大ファンだという斎藤が愛の深さを証明しました。

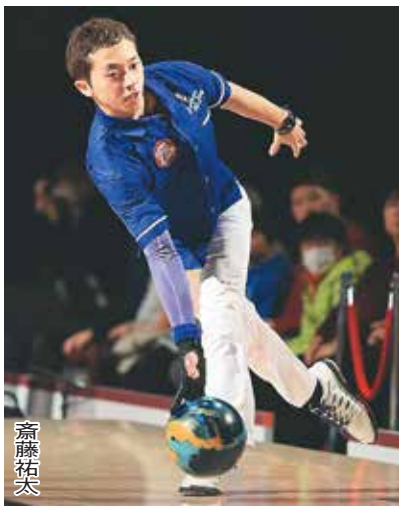
女子は中学1年生の石田万音（兵庫）と、ともに全日本中学選手権で優勝経験のある岩元美咲希（全日本ユースナショナルチームメンバー／愛知）、堀井春花（滋賀）が決勝のステージへ。前半は3名ともストライクがつながらずもどかしい展開になりましたが、7・8フレーム目で堀井がダブル。直後にスプリットを喫するも、リードを守って制しました。堀井は桑田ファンの母のためにと、親孝行な勝利を遂げました。

プロの部は男女とも初勝利。JBC時代に全日本新人選手権優勝の経歴を持つ志摩竜太郎プロは、太田隆昌プロとのサウスポー対決を制しました。中野麻理子プロもかつては国体出場など活躍。最年少プロ合格記録を持つ坂本かやプロとの頂上決戦では、パーフェクトを期待させるストライクラッシュで会場を沸かせました。

決勝大会は桑田さんと原由子さんによる始球式に始まり、名和秋プロ&姫路麗プロの「悩殺美人女子プロボウラーズ」と、桑田さんと俳優の村田雄浩さんが組んだ「渡る世間にGスポッターズ」の対決も。笑いの中にも真剣さがにじむ勝負が繰り広げられました。

フィナーレは日本ボウリング競技公式ソング「レッツゴーボウリング」のミニライブ。桑田ファンとボウリングファンのボルテージが最高潮に達しました。

堀井春花



斎藤祐太

ROUND1 グラチャン2019 INFORMATION

記者発表で前回王者が決意表明

1月から全国予選会が開催中の「ROUND1 GRAND CHAMPIONSHIP BOWLING 2019」1月28日(月)に開かれた記者発表では、大会を主催する3団体から和田秀和プロ（JPBA）、泉宗心音選手（JBC／全日本ユースナショナルチームメンバー・愛媛）と谷口雅美選手（NBF）の有力選手と各団体代表が出席しました。

昨年男子レギュラーの部で優勝の和田プロは「全部門プロボウラーがアマチュアに勝つことを強く願っています。僕自身は大好きな先輩でもあり目標でもある日置秀一プロと戦って、（昨年のJPBA決勝大会で）負けた分を早くやり返したい。アマチュアの方も賞金がもらえるということで気合が入っていると思うんですけど、プロボウラーとしてアマチュアには負けてはだめなので、どんな強い人が来ても全員倒す気持ちで頑張りたい」。

昨年女子レギュラーの部を制した泉宗選手は「アマチュアにも賞金のチャンスがある、というモットーの大会ではあるけれども、私的にはプロもアマも一緒になってやる大会なので、それで真の日本一になれることも、ものすごく名誉なこと。NBFの人に負けないように頑張りたいのと、プロの大会で上の方を走っている人と世代交代をしていかないといけないと思っているので、私たち若い世代が頑張っていきたい」。

そして谷口選手は「昨年は泉宗選手と同じグループで対戦し、最終ゲーム最終投球まで勝ち上がるチャンスがあったんですが、負けてしまい悔しい思いをしました。今年の大会では昨年の悔しい思いをリベンジしたい。泉宗選手含めナショナルチームが所属しているJBCには何とか一矢報いたい」と三者三様の大会観と目標を語りました。

JBC予選会エントリー受付中

2月末までに行われた4回のJBC予選会で、JBC全国大会への切符を32名が獲得。突破した選手が以降開催の予選会にエントリーしていた場合は取り消され出場者が繰り上がりますので、申込をされた方は随時大会ホームページでご確認をお願いします。

予選会のエントリーは各会場開催日の約2カ月前から受付開始です。

意気込みを語る泉宗選手（中央）

3団体のトップと注目選手

3・4月の予選会カレンダー

【3／18エントリー締切】
▽3月30日(土)　J17・新潟　ラウンドワンスタジアム新潟店
▽3月30日(土)　J18・奈良　ラウンドワンスタジアム奈良ミ・ナーラ店
▽3月30日(土)　J19・佐賀　ラウンドワンスタジアム佐賀店

【3／25エントリー締切】
▽4月6日(土)　J20・東京　ラウンドワンスタジアム武蔵村山店
▽4月6日(土)　J21・香川　ラウンドワンスタジアム高松店

【4／1エントリー締切】
▽4月13日(土)　J22・長野　ラウンドワンスタジアム長野店
▽4月13日(土)　J23・三重　ラウンドワンスタジアムみえ・川越IC店
▽4月13日(土)　J24・山口　ラウンドワンスタジアム下関店

【4／8エントリー締切】
▽4月20日(土)　J25・宮城　ラウンドワンスタジアム仙台苦竹店
▽4月20日(土)　J26・山梨　ラウンドワンスタジアム山梨・石和店
▽4月20日(土)　J27・兵庫　ラウンドワン新開地店

【4／15エントリー締切】
▽4月27日(土)　J28・栃木　ラウンドワンスタジアム宇都宮店
▽4月27日(土)　J29・愛知　ラウンドワンスタジアム中川1号線店

【3／11エントリー開始】
▽5月11日(土)　J30・東京　ラウンドワン南砂店
▽5月11日(土)　J31・高知　ラウンドワン高知店

【3／25エントリー開始】
▽5月25日(土)　J32・群馬　ラウンドワン前橋店
▽5月25日(土)　J33・神奈川　ラウンドワン横浜戸塚店
▽5月25日(土)　J34・大阪　ラウンドワン東大阪店
▽5月25日(土)　J35・岡山　ラウンドワン岡山妹尾店
▽5月25日(土)　J36・福岡　ラウンドワン博多・半道橋店

【4／15エントリー開始】
▽6月15日(土)　J37・石川　ラウンドワンスタジアム金沢店
▽6月15日(土)　J38・京都　ラウンドワンスタジアム京都伏見店
▽6月15日(土)　J39・熊本　ラウンドワンスタジアム熊本店